

【概要版】鶴岡市部活動改革に関わるアンケート調査結果報告

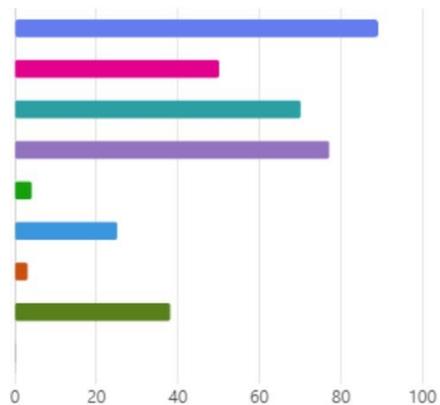
教職員用

目的:昨年度からの休日の部活動の段階的な地域移行に伴い、現状を把握し、市内における新たなスポーツ・文化環境の整備充実のために実施するもの。

98人回答

スポーツ・文化活動を通して子どもに期待すること

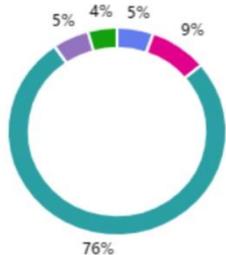
● 人としての成長	89
● 技術・体力の向上	50
● 礼儀や作法	70
● 仲間づくり	77
● 進路実現	4
● 文武両道	25
● 上位入賞	3
● 自立	38
● その他	0



スポーツ・文化活動を通して子どもに期待することとして約90%の教職員が『人としての成長』と回答した。続いて『仲間づくり』『礼儀や作法』と回答した。

現在の土日休日のスポーツ・文化活動時間及び日数

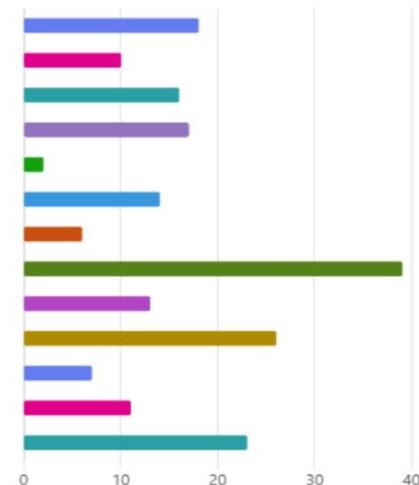
● 多い	5
● やや多い	8
● 丁度よい	71
● やや物足りない	5
● 物足りない	4



現在の土日休日のスポーツ・文化活動の時間及び日数は、約71%が『丁度良い』と回答した昨年度より6ポイント高い。『多い・やや多い』または『物足りない・やや物足りない』は少数だった。

現在の土日休日のスポーツ・文化活動での困り感

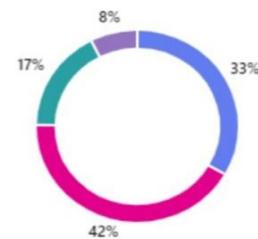
● 指導方法	18
● 事故等の対応	10
● 選手・部員との関係づくり	16
● 保護者からの期待	17
● 周囲からの期待	2
● 選手・部員の意欲の向上	14
● 費用負担	6
● 顧問と指導者の連携	39
● 会場の確保	13
● 大会運営	26
● 備品の管理	7
● その他	11
● 困り感はない	23



現在の土日休日のスポーツ・文化活動での困り感として、約40%の教職員が『顧問と指導者の連携』と回答した。昨年度は大会運営が多かったが、休日の活動の地域移行が進み、生徒の様子、目標の共有や、部活・クラブの活動計画の立案に苦慮していると考えられる。その他として「指導者の確保」「役員（審判）としての関わり」「クラブ所属と所属なしの中学生との関わり」「大会申し込みの事務作業」「格差」などがある。

現在の土日休日のスポーツ文化・活動の満足度

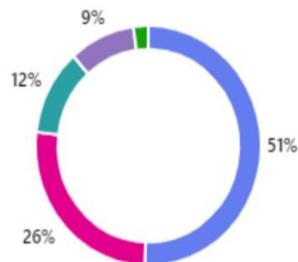
● 満足	31
● やや満足	39
● やや不満足	16
● 不満足	7



現在の土日休日のスポーツ・文化活動の満足度は、約75%が『満足・やや満足』と回答した。不満足の原因として、「連盟の仕事や大会運営は変わらない」「指導したいができない」等がある。

## 現在の土日休日の地域移行に伴う業務負担

● 大いに軽減した	48
● 軽減した	25
● やや軽減した	11
● 変わらない	9
● 増加した	2

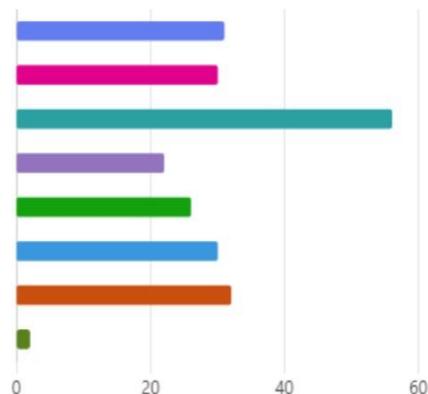


現在の土日休日の地域移行に伴う業務負担は、**約89%**が『**大いに軽減した・軽減した・やや軽減した**』と回答した。

増加した理由として「連盟から依頼される役割が増加」などがある。昨年度も同様の回答があったが、減少した。

## これからの補助制度の必要性

● 移動に係る経費	31
● 施設使用に係る経費	30
● 指導者等への謝礼	56
● 登録に係る経費	22
● 保険に係る経費	26
● 用具等購入に係る経費	30
● 大会への参加に伴う経費	32
● その他	2



**約83%**の教職員が、補助は『**必要**』と回答した。

特に「指導者等への謝礼」が必要であると**約57%**の教職員が回答した。保護者、指導者よりも、教職員は『指導者への謝礼』の必要性を感じている。

## これからのスポーツ・文化活動の在り方についての意見・要望等

- ・現在の方向を推進していただければありがたい。
- ・指導者の確保がやはり課題。指導者の善意に任せているところがあるので、金銭面で補助することは望ましいが、補助金頼みでは持続しないと思う。受益者負担の理解の浸透が必要。
- ・文化部の移行が心配である。地域人材の確保ができるのだろうか。
- ・特に上位を目指す生徒にとっては、運動部文化部ともに、クラブチームで同じ熱量を持つ子供たちと切磋琢磨した方がよい。学校としても外部活動の子供たちの様子を知っておく必要はあると思う。
- ・地域移行する上で、指導してくださる指導者への報酬は必要。ボランティアでは、教員の負担がただ地域の指導者へ移されただけ、という感じがする。
- ・せめて勤務している学校では指導できるようにしてほしい。勤務校と居住地とで競技が同じ場合困る。
- ・せめて三川町・庄内町だけでも、同じ歩調で進めてもらいたい。
- ・今までの部活動は、勝利を目指す生徒と競技を楽しむ生徒が混在していたので指導が難しかった。そういう意味では生徒が自分の目的に応じて選択できるように選択の幅が広がることが望ましい。

### 《考察》

- ・業務負担が軽減された、自身に合ったワークバランスが保たれるなどの理由から、『満足・やや満足』と回答した教職員が約75%であった。
- ・新たに、「顧問と指導者の連携」が課題であると約40%の教職員が回答した。休日の活動の地域移行が進み、生徒の様子や目標の共有、活動計画の立案に苦慮していると考えられる。
- ・大会スタッフ及び指導者として、希望する教員が自由選択（兼職兼業含む）できることを望む声がある。